

# めぐみの森だより 2026年4月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園

☎ 03-3480-4448



卒園・・・そして、入園・進級・・・おめでとうございます!



3月、無事に24名子どもたちが卒園を迎えました。今までになく卒園式でもリラックスモードの姿も見られ、こんな場でもいつもの姿を見せられる子どもたちを見て、安心して小学校に送り出すことができました。今回の卒園を迎えた子どもたちは、平成31年、令和元年、令和2年に生まれた子どもたち、5月1日に平成から令和に変わったあの年の子どもたちが卒園を迎えるとは、時の流れの早さを改めて感じました。

入園おめでとうございます。いくつものきっかけでめぐみの森保育園に入園されてきたことを心から嬉しく思います。進級おめでとうございます。今年は縦割りクラスへの移行に伴い、全員帽子が新しいものになりました。子どもたち、職員もどの色が何クラスか、まだまだ慣れないことがあります。子どもたちの成長を共に喜んでいくことのできる日々していきたいと思ひます。



毎月保育園で購読している『※キリスト教保育』冊子にこんなことが書いてありました。保育の中では、「朝の集まり」のときに一人ひとりの名前を呼びます。子どもたちの名前を呼ぶことを、ただの出欠を確認する行為にいませんか？みんなの中にある「あなた」を私はちゃんと見ていますよ。今日も元気に「あなた」会えて嬉しいよ。と思いながら、ひとり一人がかけがえのない「あなた」として受け止められていることこそ、保育を担う私たちが大切にしていかなければならないことだと思ひます。と、、たしかに卒園式では、ひとり一人に卒園証書を渡す際、目を合わせ「おおきくなったね」なんて思いを込めて名前を呼びましたが、自分がクラスを持っていたころ、毎日そんな思いを込めて名前を呼ぶことができていたのか、、子どもの名前を呼ぶことより、みんなが私の話を聞いているのか、きちんと座ってこちらを見ているのか。そんなことがばかりが気になってしまっていたように思ひます。

そして冊子には、「おはようございます」の挨拶も「私はあなたを受け入れている」という思いを込めて明るい挨拶をすることで、「自分が受け入れられている」と実感することができる。それは、誰にでも大切で必要な感覚です。そのことを大切にしているのが「キリスト教保育」です。とも書かれていました。気持ちよく挨拶することは、あたりまえのようにも感じますが、挨拶に限らず、「ありがとう」のことばも、特に毎日顔を合わせる家族となると、何だか恥ずかしくて言わずに過ごしていることもあるかもしれません。そしてそれは保育園の中でも、子どもや保護者には意識していても、職員同士となると、忙しきで適当に済ませてしまうことがあったように思ひます。今回この箇所を読むことができ、私の足りないところを振り返るきっかけをもらったように思ひました。

これからはじまる1年が、ここに集う人たちにとって、こんな感覚が感じられる日々となるように、あたりまえのことを丁寧に積み重ねていきたいと改めて思ひました。

※キリスト教保育連盟「キリスト教保育」2026年03月号

記：園長 藤本紘子

## 《今月のおすすめ》

喜多見駅前にある、『信濃屋』ちょっぴり高級なスーパーですが、お気に入りの油揚げ、だしパックを購入するため、時々途中下車をして寄っています。信濃屋ブランドのお菓子も魅力的です。

[株式会社 信濃屋食品](#)・[ウイスキー](#)・[スピリッツ](#)・[リキュール](#)・[直輸入ハードリカー](#)・[ワイン](#)・[世界のお酒](#)・[厳選した食品](#)・[チーズ](#)